

## 基調講演

演題：人口減少、少子高齢化の現状と課題 ～ 社会保障・税一体改革とその後のビジョン ～  
 講演者：厚生労働省政策統括官付社会保障担当参事官室 室長補佐 鈴木 健二

### ◆人口の現状と見通し【図1】

- ・「少子高齢化」というより、「人口減少」かつ「高齢化」  
 ⇒ 高齢化率は一貫して上昇する見込み
- ・地域によって大幅に異なる状況  
 ⇒ **地域毎**に将来の人口構成を見据えた計画が必要

### ◆社会保障の現状【図2】

- ・社会保障給付費の上昇  
 ⇒ 医療・介護の給付費が急増
- ・社会保障負担率は「公費：保険料＝4：6」  
 ⇒ 社会保障給付費の増加に比例して負担額も増大

### ◆公的年金制度

- ・年金財政のフレームワークを導入  
 ⇒ 給付水準を自動調整するマクロ経済スライドの導入
- ・制度改正の展望  
 ⇒ 雇用対策、少子化対策、経済成長も課題の局面

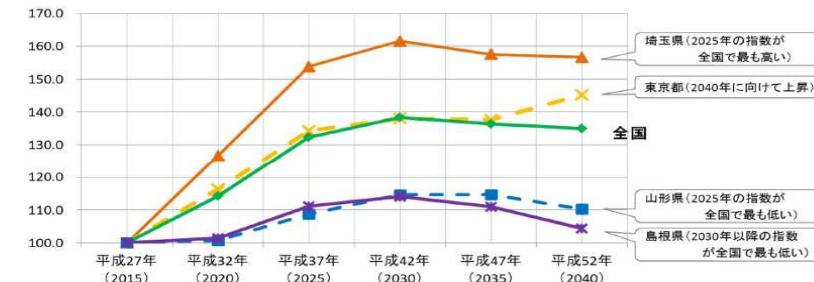
### ◆子ども子育て

- ・出生率の低下  
 ⇒ 出産・子育てと働き方をめぐる問題に起因
- ・子ども子育ての充実  
 ⇒ 「子ども・子育て支援新制度」の実施(H27.4施行予定)

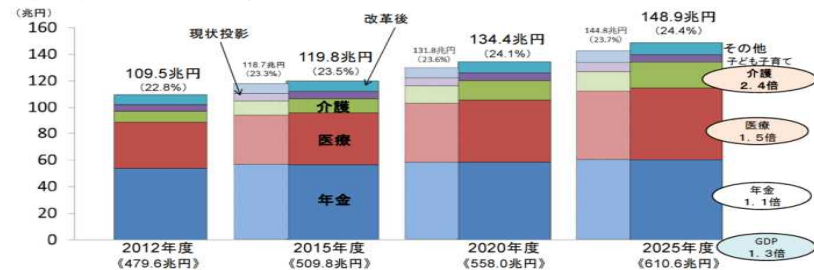
### ◆医療・介護【図3】

- ・医療・介護の提供体制の見直し  
 ⇒ **地域毎**の医療と介護の連携による「地域包括ケアシステム」の構築

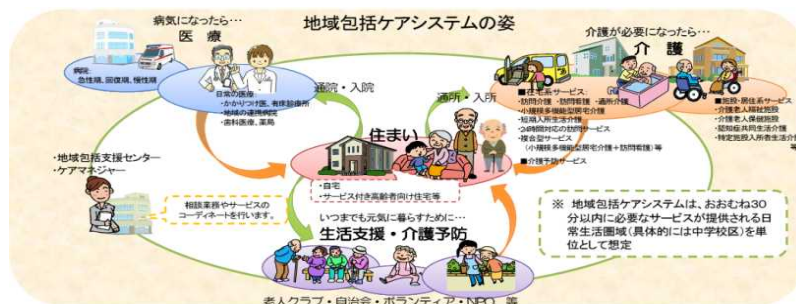
【図1】 75歳以上人口の将来推計(平成27年の人口を100としたときの指数)



【図2】 社会保障に係る費用の将来推計



【図3】 地域包括ケアシステム



## 意見交換(主な意見)

・改革には必ず痛みが伴う、痛みが伴うから改革。こういった会議も含めて**社会全体として痛みを伴う改革が絶対必要であるという機運を盛り上げていくことが**、当プラットフォームの目的の一つ。こういう形で議論を進めていって、国民全体の、地域全体のコンセンサスを固めていく必要がある。

・北陸は、女性の雇用率も高く、失業率も低い。どこかに再分配の論理が働き、みんなで支え合っている部分があるのではないかと。それ故、幸福度とか満足度が高いのではないと思う。**国がトップダウン式に地方に押しつけるのではなく、地方から積み上げていく地域主体の考え方、地域資源をどのように活用していくかを考えていくべきだ。**「北陸地域連携プラットフォーム」とはそういう場であるべきである。

・経済の有り様、この先50年、何で食べていくのか、その中で人間はどう生かされていくのか、人間はどう活躍していくのか、人間不在であってはどのような話であり、人間がどういふふうに住き生きと躍動感のある人生を全うできるのかということが欠落してはいけない。相当大きなパラダイム・チェンジの下で、**いわゆる幸福感、幸せ感というものも変わってくるのではないかと。どういふものが幸福で、何が幸せかということも併せて考えていかなければならない。**

## 今後の展望

- 医療介護がより社会保障の中で大きな役割を占める
- 中央集権型ではなく**地域からの積み上げ型による社会保障サービスの構築** ⇒ **地域の役割が大**
- 社会保障は**社会保障のみでは語れない**  
 (高齢者の働き方、現役世代の非正規化、女性の就労(子ども・子育て)) ⇒ **土台としての日本経済をどうするか**